

氏名 伊 達 純 代

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2597 号

学位授与の日付 平成 5 年 6 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 網膜剝離の超音波診断に関する研究

第 1 報 網膜裂孔の検出

第 2 報 裂孔原性硝子体出血

論文審査委員 教授 平木 祥夫 教授 増田 游 教授 大本 堯史

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

### 第 1 報

硝子体出血などの眼底透見不能時に、網膜裂孔の存在の有無を知ることは治療方針決定の際に重要であるが、網膜裂孔の超音波所見はいまだ報告がない。そこで裂孔の超音波所見を得るために、検眼鏡的に網膜裂孔を認め、かつ網膜剝離を生じていない34眼に超音波検査を施行した。馬蹄形裂孔22眼全例で一端で眼球壁と連続し、もう一端で後部硝子体膜と連続する短い膜様エコー所見が得られた。蓋付裂孔12眼全例で、operculum が後部硝子体膜上に存在する短い膜様エコーとして認められた。これらの特徴的な所見から、特に馬蹄形裂孔の超音波診断は可能と考えた。

### 第 2 報

眼底透見不能な原因不明の硝子体出血の症例59眼に超音波検査を施行し、裂孔原性硝子体出血の早期診断が可能かどうかを検討した。9 眼に網膜裂孔に特徴的な、一端で眼球壁と連続し、もう一端で後部硝子体膜と連続する短い膜様エコー所見を得た。硝子体出血の自然吸収後あるいは硝子体手術後に、眼底を検眼鏡的に確認したところ、出血の原因になったと思われる網膜裂孔はすべて検出されていた。偽陽性は1 眼あった。詳細な超音波検査により、裂孔原性硝子体出血の早期診断は可能であると結論した。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は眼科領域における超音波診断について臨床的に研究したものであるが、従来十分解明されていなかった網膜剝離の生じていない網膜裂孔、とくに弁状裂孔、さらに裂孔原性硝子体出血の特徴的な超音波所見に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。